

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和6年5月16日（木）
訪問先	奈良県 奈良市
出席者	神子 雅人 委員長、栗山 香代子 副委員長、高橋 伸也 委員、 白川 美作江 委員、遠藤 浩一 委員、松本 樹影 委員、 井上 武 委員
随行者	和久井副主幹
調査項目	奈良市子どもセンターについて
調査内容	奈良市では、「奈良の子どもたちは奈良市で守る」という思いを持ち、増加する児童虐待等に対応するため、令和4年4月に児童相談所機能を含めた奈良市子どもセンターを開設した。 子どもセンターでは、子どもの安心・安全を守るとともに、専門職等に子育て相談ができ、親子のふれあいを育み、子育てを総合的に支援する施設である。5つの機能（地域子育て支援センター、キッズスペース、子どもの発達相談、子ども家庭総合支援拠点、児童相談所）が複合した施設で、それぞれが連携しつながり合うことで全ての子どもや子育て世帯の応援に努めている。 子どもセンターは、妊娠・出産期から子どもの自立まで、どんな時でもどんな相談にも対応できる体制が整えられており、ネットワーク機能も充実した大変魅力のある施設であると感じた。
主な質疑	Q キッズスペースでの子どもの安全管理は。 A 専門の研修を受けたスタッフを配置し、事故等がないよう利用上の注意事項の案内や、ときには遊び方の提案などしながら、親子の遊びを見守っている。 Q ヤングケアラーについての相談件数は。 A 令和5年度、市民から直接の相談は2件であり、啓発、広報の必要性を感じている。 Q 市で児童相談所を運営しているが、他部署との連携は。 A 児童相談所と子どもを支援する関係部署が同じ課、同じフロアであるため、どんな相談が入ってもすぐ対応ができ連携しやすい。 Q 課題は。 A 人材確保と人材育成である。経験が浅い職員ばかりだと難しい仕事であるため、ある程度経験を積んだ職員が階層的に必要である。組織内で人材育成ができる体制や、心身ともにストレスがかかることから、職員の健康管理やワークライフバランスも大切である。

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和6年5月17日（金）
訪問先	奈良県 奈良市
出席者	神子 雅人 委員長、栗山 香代子 副委員長、高橋 伸也 委員、 白川 美作江 委員、遠藤 浩一 委員、松本 樹影 委員、 井上 武 委員
随行者	和久井副主幹
調査項目	地域共生社会の実現と重層的支援体制整備事業について
調査内容	奈良市では、全国的な社会情勢の変化に伴う地域の繋がり希薄化、孤立などを背景に、住民が地域で暮らしていく中で抱える生活課題が、一層複雑化、複合化している状況で、解決が困難なケースの増加や、制度のはざまの見えにくいニーズを捉えることが困難であるため、令和5年度から事業を開始している。生活課題の変化や地域共生社会の実現と重層的支援体制整備事業を実施する視点から、第4次地域福祉計画を策定し「支えあい、ともに生きる安心と健康のまちづくり」を基本理念に3つの基本目標の達成に向けて5つの重点項目を設定し取り組んでいる。今回は、参加支援事業、継続的支援事業及び地域づくりに向けた事業を中心に調査した。 本事業において奈良市では、制度は行政、制度外は社会福祉協議会と位置付けており、社会福祉協議会が制度化されていない課題に先駆的に取り組んでいる体制が、非常に特徴的であった。 事業や地域生活課題の解決に資する支援が、包括的に提供される体制の整備を進めている本市の施策に大いに役立てられるものであった。
主な質疑	Q 社会福祉協議会の組織体制は。 A 正規職員が約80名。常勤及び非常勤職員が約150名。また、市からの受託事業の調査員等も合わせると約300名である。 Q 制度のはざまにいる人を救うことができるのか。 A 潜在しているニーズや埋もれているニーズがどれだけあるか分からないため難しい。そのニーズをいかに顕在化させるかが重要である。 Q 様々なサポーターへの研修にはどのようなものがあるのか。 A 様々なサポーターのうちの1つである見守りサポーターは、監視ではなく見守ることが、いかに大事なのかを感じてもらい研修や情報共有をするため守秘義務の研修などがある。 Q 協力団体やボランティア団体はどれくらいいるのか。 A 子ども食堂やボランティアセンターに登録している団体も含め、約250団体である。